

「ほっと」活用のポイント

- ☑ 生徒指導を意識した授業づくり
- ☑ 授業スタイルや学習ルールによる「居場所づくり」

取組の実際

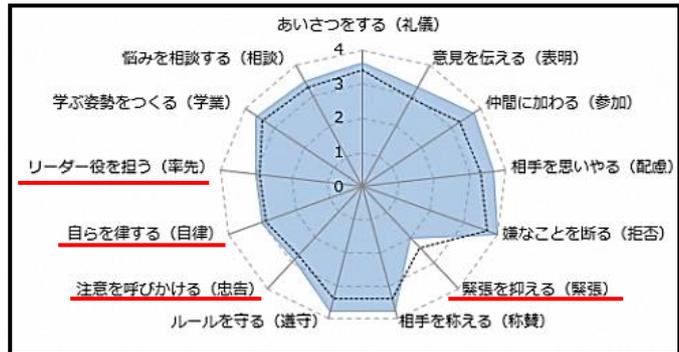
1 「ほっと」による傾向と分析

全校生徒を対象に、6月に「ほっと」を実施した。

【傾向と分析】

- ・「仲間に加わる」「嫌なことを断る」「相手を思いやる」「相手を称える」等の得点が高い。
 - ・「緊張を抑える」「注意を呼びかける」「自らを律する」「リーダー役を担う」の得点が高い。
- 周りに気を遣う優しさをもっている生徒が多いが、

自分たちが企画し、練り合いながら責任をもって物事を進めることを不得手としている生徒が多い。



2 分析結果に基づいた取組

「注意を呼びかける」「自らを律する」の得点が、全道平均よりは高いものの、他の項目と比較して低いことから、各教科等の授業において生徒同士の積極的な交流を促すなど、生徒指導を意識した指導を充実させた。

また、「緊張を抑える」の得点が低いことや、「リーダー役を担う」の得点が他の項目と比較して低いことから、生徒一人一人が主体的に学び、達成感や充実感をもたせることができるよう、授業改善に取り組んだ。

3 取組の成果

- 各教科等の授業において、全教員の共通理解の下、生徒同士の交流を促す指導の工夫を行ったことにより、11月に実施した「ほっと」では、「注意を呼びかける」や「自らを律する」の得点が6月と比較して0.3点上昇するなど、互いの意見を聞き合い、尊重し合う生徒が増加した。
- 各教科等の授業における学習過程を、生徒が主体的に学ぶことができるよう見直したことにより、生徒一人一人がそれぞれの得意分野で活躍する機会が増え、自信をもったのびのび活動できる環境が構築されるなど、生徒の「居場所づくり」につなげることができた。11月に実施した「ほっと」では「リーダー役を担う」の得点が6月と比較して0.2点上昇した。

「ほっと」活用のポイント

- ☑ 支持的風土の醸成
- ☑ 自分の考えを表現し、伝え合う活動を位置付けた授業づくり

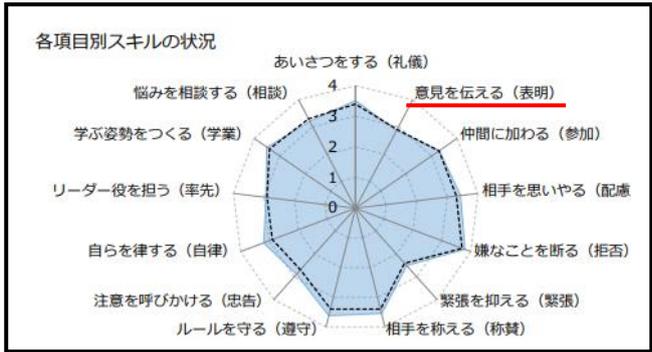
取組の実際

1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に6月に「ほっと」を実施した。

【傾向と分析】

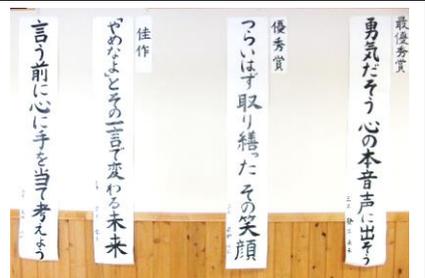
- ・「挨拶をする」「相手を称える」「ルールを守る」「自らを律する」「学ぶ姿勢をつくる」の項目で全道平均を大きく上回る
 - 基本的な生活習慣が備わっている。落ち着いた生活を送ることができている。
- ・「意見を伝える」の得点が全道平均を下回る
 - 自分の意見を周囲へ伝える方法が分からない。安心して発表できる雰囲気が構築されていない。



2 分析結果に基づいた取組

「意見を伝える」の得点が低いことから、各教科等の授業において、協働的な学びを通して、異なる考えを認め合うことで、よりよい学びにつながることを生徒が実感できるよう、自分の考えを表現する活動を位置付け、授業改善に取り組んだ。

誰でも安心して意見を述べることのできる支持的風土の醸成に努め、生徒会執行部の活動として「いじめ撲滅運動」を充実させた。



【いじめ撲滅標語】



3 取組の成果

- 生徒がICT端末を活用して「振り返りシート」を記入したことで、効率的に集計することができた。
- 11月に実施した「ほっと」では、「礼儀」「称賛」「遵守」「自律」「学業」の項目では6月と同様に全道平均を大きく上回った一方で、「意見を伝える」の得点の上昇が見られなかったものの、ソーシャル・スキル尺度では「関係維持」の得点が50.1→50.9と上昇するなど、良好な人間関係を築き、活動することにつながることができたことから、効果の見られた取組について継続する必要がある。



【1年生表現活動「ダンス」】